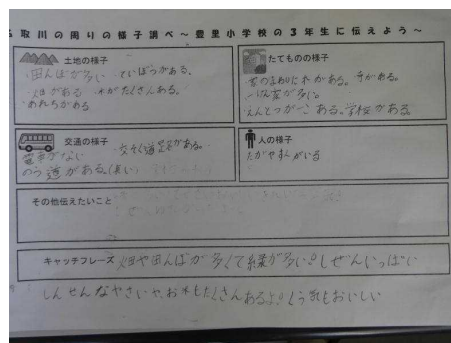


1 小単元名及び小単元の目標

「市の様子」（7／11本時）

◎市の様子から学習問題を見だし、観察、調査をしたり白地図にまとめたりして調べるとともに、地域の様子は場所によって違いがあることや、身近な地域や市の特色、よさを考え、適切に表現する。



2 本研究授業の提案について

【資料 ワークシート】

秋保地区の特色を理解し、適切に表現するために以下の二つについて提案を行った。

- (1) 調べ学習の充実→発表による共有→キャッチフレーズを作るための個人思考というステップを踏むことで、地区の特色について自分なりの考えをもつことができるようにした。
調べ学習では、パンフレットや現地の写真など資料を充実させることで意欲的に調べることができていた。また、「交通の様子」、「建物の様子」など調べる観点を明確にしたワークシート（資料1）に書かせたことで、調べた情報が整理されていた。情報を共有する発表場面では、情報がワークシートに観点ごとに整理させていることにより、何について話せばよいのか、戸惑うことなく自分の調べたことを発表する姿が見られた。秋保地区の特色を多角的に共有した後に個人思考をさせたことにより、ほとんどの子供が秋保地区の特色について自分なりに考え、キャッチフレーズを作ることができていた。よって、この手だては有効であったと考える。
- (2) 「グループごとに作成したマップを登米市の小学生に紹介する」という単元を貫くゴールイメージを持つことで、考えたことを必要感を持って、伝え合うことができるようにした。単元の一番最初の時間に単元全体の進め方とゴールイメージを丁寧に説明をした。相手意識をもつことと、話合いの目的が明確化されたことによって、授業の中で意欲的に話し合う姿が見られた。調べ学習や本時の後のマップの作成においても相手意識を持って、意欲的に活動に取り組む姿が見られた。明確なゴールイメージを持たせることが単元全体を通じて有効な手だてとなった。

3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 個人の思考の後が見える形で残るように、ワークシートを工夫した。本時前までに何を調べて、本時の中で何を考えたのかがワークシートから読み取ることができた。しかし、グループで思考した結果を書く欄が分かりづらかったので、改善をしていきたい。
- (2) 発表した地区の特色を視覚的に整理できるように板書を工夫した。ワークシートと対応させて板書をするすることで、話す観点と聞く観点を明確に示すことができた。しかし、「土地の様子」を共有する場面において、名取川の位置を全体で確認したが、拡大地図などを用いなかったために、正確に把握ができていない児童がいた。地図の拡大提示やテレビの利用など情報の提示の仕方を工夫することで、より正確で効果的な情報の共有をしていくことが今後の課題である。

4 次回の研究授業へ向けて

以上の点を踏まえて、次回の研究授業では以下の点を意識した授業を展開していきたい。

- ・効果的な資料提示の仕方の工夫
- ・学習事項と自分の生活体験とのかかわりについて話す機会を確保することで、社会的事象を実感的に考えることができる授業